第１分科会

柿安シティホール

大ホール



第１分科会

会 場　柿安シティホール　大ホール

発表テーマと発表PTA

◆思いやりの心と責任感を持ち、積極的に行動する生徒を育てるPTA活動
～保護者・学校・地域の連携を通して～
／石川県羽咋市立邑知中学校PTA

◆こどもと絵本とお話しマムと　～心の種を育てる読み聞かせ～
／三重県桑名市立城南小学校PTA

助　言　者

●桑名市教育委員会　教育研究所　所長　難波　慶子
●桑名市教育委員会　教育指導課教育指導係　係長　生川　数馬

講　　演

◆子どもの才能を育むコーチングコミュニケーション
～人と人との関わりの中で育む未来への力～

講 演 講 師

●共創コーチング株式会社　代表取締役　稲垣　友仁

思いやりの心と責任感を持ち、積極的に行動する生徒を育てるＰＴＡ活動
～ 保護者・学校・地域の連携を通して ～

石川県羽咋市立邑知中学校ＰＴＡ
会　長　　山　吹　　翔

１　はじめに

邑知（おうち）中学校は、能登半島の付け根にあたる羽咋市にあり、豊かな自然環境に囲まれている。１つの小学校と１つの中学校という小さな校区で、全校生徒９２名という小規模校であることから、保護者同士のつながりも深い。

今年５月には本州初となるトキの放鳥が行われ、県内外からも注目されている地域である。

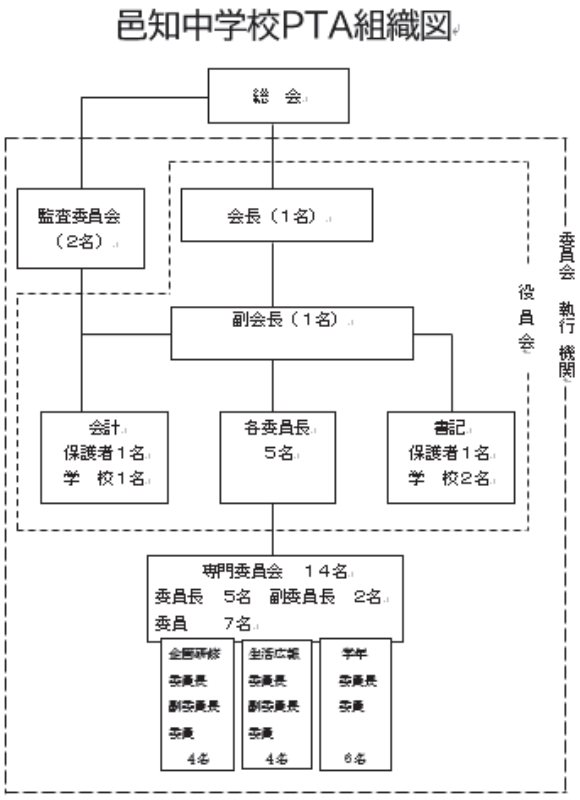


また、今年度は羽咋市の千里浜海岸で、ふるさと教育の一環として、市内全小中学校で合同マラソン大会が行われるなど、地域と密着した活動が積極的に行われている。



ＰＴＡとして、学校・地域に誇りを持ち、責任ある行動ができる生徒を育てるため、保護者・学校・地域が連携したＰＴＡ活動を積極的に推進している。

邑知中学校ＰＴＡは、全会員８０名。役員１１名（会長、副会長、書記、会計各１名、委員長５名、監事２名）と専門委員会１４名と会員で組織されている。委員会は企画研修委員会、生活広報委員会、学年委員会の３つで構成されており、それぞれの委員会が活動を企画、運営し、ＰＴＡ活動を進めている。



２　活動の実践

(1) 共通の体験活動を通して
～共通の話題がもてるように～

ア　資源回収

年２回６月と９月に行われ、古紙（新聞雑誌段ボール）やアルミ缶など、校区全世帯に呼びかけ、それぞれの地区担当の親子で回収している。企画研修委員会が中心となって全世帯にチラシを配付し、行っている。時期をずらして小学校も実施しており地区全体では年４回の資源回収が継続的に行われている。子どもがいない家庭でも、

小中学校に協力的で、たくさんの資源を出してくださる。地区担当の親子が回収をしており、親子で軽トラ等に乗り、荷物を運搬する姿は大変ほほえましい。

例年１０万円以上の収入があり、学校備品（大型モニター、校内掲示板、デジタルカメラ等）を購入し、教育活動に役立ててもらっている。



イ　奉仕作業（グラウンド・花壇清掃）

資源回収の前に、全校生徒と保護者によるグラウンドの除草・花壇除草を行っている。毎年、場所の割り当てを変更しながらほぼ１００％の参加率で行っている。草刈り機を持参する方が多く、広範囲を短時間で行っている。



ウ　親子学習会（各学年）

１年生は保護者による職業講話、２年生は高校の先生を招いての高校説明会、３年生は進路説明会を行い、進路や将来を共に考えるきっかけにしている。

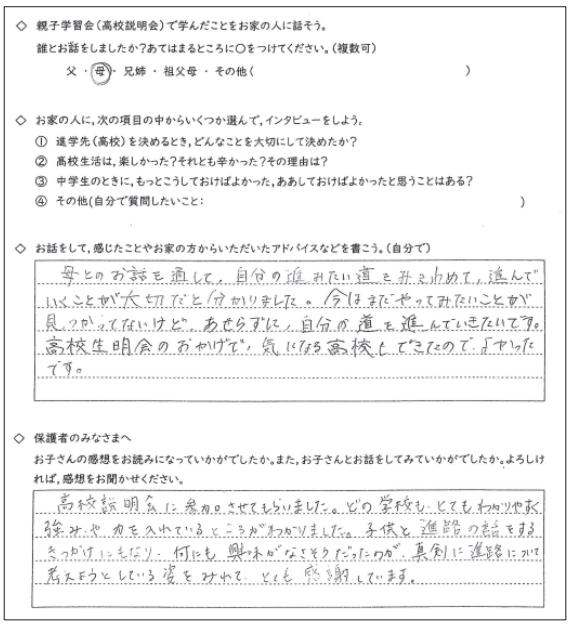
特に１年生では、保護者が講師となり、子ども達に、働く意義や、苦労、思いなどを熱く語っている。昨年度は消防士、整備士、看護師の仕事について話していただいた。身近な大人の話す姿は、親にとっても、子どもにとってもよい機会になっている。

＜１年生職業講話＞





＜２年生高校説明会＞


◇ 親子学習会（高校説明会）で学んだことをお家の人に話そう。
誰とお話をしましたか？あてはまるところに○をつけてください。（複数可）
父・母・兄姉・祖父母・その他（　　）

◇ お家の人に，次の項目の中からいくつか選んで，インタビューをしよう。
① 進学先（高校）を決めるとき，どんなことを大切にして決めたか？
② 高校生活は，楽しかった？それとも辛かった？その理由は？
③ 中学生のときに，もっとこうしておけばよかった，ああしておけばよかったと思うことはある？
④ その他（自分で質問したいこと：　　）

◇ お話をして，感じたことやお家の方からいただいたアドバイスなどを書こう。（自分で）
母とのお話を通して，自分の憧れたい道を見つめて，進んでいくことが大切だと分かりました。今はまだやってみたいことが見つかってないけど，あせらずに，自分の道を進んでいきたいです。高校生説明会のおかげで，気になる高校もできたので「やった」です。

◇ 保護者のみなさまへ
お子さんの感想をお読みになっていかがでしたか。また，お子さんとお話をしてみていかがでしたか。よろしければ，感想をお聞かせください。
高校説明会に参加させてもらいました。どの学校もとてもわかりやすく，体験や声を入れているところがわかりました。子供と進路の話をするきっかけにもなり，何にも興味がなさそうだったわが子が，真剣に進路について考えようとしている姿をみれて，とても感動しています。

エ　親子学習会（ウェルビーイング）

「親子で学ぶウェルビーイング」と題し、金沢工業大の平真由子准教授をお招きして、保護者・教職員・異学年生徒が混じった小グループで、ウェルビーイングカードを使って、ワークショップを行った。ウェルビーイングについて学び、互いの価値

観を尊重しつつ、邑知中をよりよくするために何ができるかを考えた。参観ではなく対等に会話する形をとり、親子共に大変好評だった。

＜保護者の感想から＞



とても貴重な体験でした。私は３年生の保護者ですが今回１年生２年生のこどもとも初めて意見交換ができ１人１人しっかりとした考えを持っていて、とても感心しました。邑知中学校の生徒数は少ないですがどの学年もとても仲が良く本当に素敵だと思っていましたが、今回改めてそう感じました。『“Well being” １人１人の思いを大事にする』忙しい日常でもこれをこれからさらに大事にしていきたいと思うきっかけになりました。平先生、生徒のみなさんありがとうございました。

オ　学校公開（授業参観）

毎年１１月の学校公開では、総合的な学習の発表会をしており、保護者の参加率も８割から９割と大変高い。邑知中の総合的



な学習における地域学習の発表は、保護者にとっても地域を学び、地域について考える良い機会となっている。

カ　広報紙「飛翔」卒業メッセージ



例年、３月の卒業に寄せて、全員の親子のメッセージを掲載している。多感な時期であるが、互いを思いやるやりとりで心温まる内容となっている。

＜ＰＴＡ広報「飛翔」＞





〇子ども：学校で過ごす時間も楽しいけれど、家ではやっぱり安心します。高校生活も楽しむことを忘れず、たくさん努力します。お願いします。

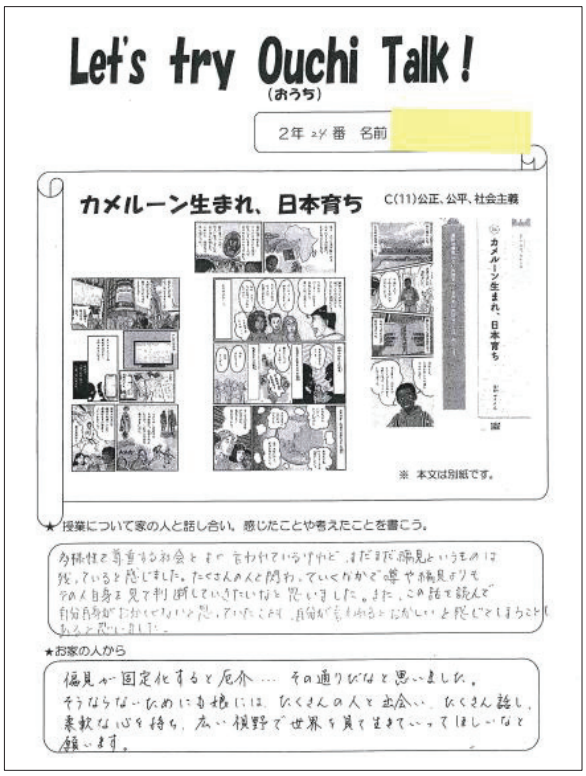
〇保護者：「よく遊び、よく学べ」だね。目標ができたらそこに向かって全力で挑戦し続けてください。家族みんなで応援しています。

キ　道徳（Ouchi Talk）の取組

道徳の時間の振り返りを、家庭に持ち帰り、保護者と話し合い、感想を書く。後日「道徳通信」として、意見や感想が掲載されているものが届く。道徳の授業に保護者として参加するという学校の教育活動への

参加が、共通の話題のもと、親子で語り合うきっかけになっている。

(2)　家庭の教育力向上をめざす


Let's try Ouchi Talk!
(おうち)
2年 2ｲ番 名前
カメルーン生まれ、日本育ち
C(11)公正、公平、社会正義
※ 本文は別紙です。
★授業について家の人と話し合い、感じたことや考えたことを書こう。
多様性を尊重するお会とまで言われているけど、まだまだ偏見というものは残っていると感じました。たくさんの人と関わっていくなかで噂や偏見だけで自分自身を見て判断していきたいなと思いました。また、この話を読んで自分自身がおかしくないと思っていたことが、相手が嫌がるとおかしいと感じてしまうことがあると思いました。
★お家の人から
偏見が固定化すると厄介…その通りだなと思いました。そうならないためには、たくさんの人と出会い、たくさん話し、柔軟な心を持ち、広い視野で世界を見てまわってほしいなと願います。


羽咋市立邑知中学校
1年1組
道徳通信
2026年2月27日（金）
保護者の方からのメッセージ
Let's try Ouchi Talk!
(おうち)
テーマ
～人が働く理由ってなんだろう。何のために働くのだろう～
君たちはどう生きるか
☆Let's Try Ouchi Talkでいただいた保護者の方からのメッセージを紹介させていただきます。いろいろな見方、考え方で自分自身の将来について考えるきっかけにしてもらえると嬉しいです。
【保護者の方より】
○ 働いていると、利用者さんと話すことで、こちら側も笑顔になれ、お礼を言っていただけると、より嬉しくなります。お金や収入は家族を養っていくために重要ですが、利用者さんからのお礼やふれあいが1番の癒しです。だからこそ、仕事は自分の好きで選び、仕事によって異なる喜びを見つけてください。
○ なりたい自分になるため、自己実現のために働くことも、とても大きなモチベーションになるのだと子供と話をしていて気が付きました。久しく忘れていた感覚で、自分にとっても働くことを見直すきっかけになりました。
○ 働く理由には本当に人それぞれの目的がありますね。「生活のため」や「自分の成長のため」「社会の役に立つ喜び」など様々だと思います。家族のためにお金は必要だけど、楽しくない仕事は続けられないね。働くことは大変なこともあるけど、楽しいし、色々な人に出会えて成長もできます。
○ 働くのは生活のためだけでなく、自分の成長や社会の役に立つためでもあります。どんな仕事も人や社会との関わりの中で成り立っていることを忘れずに、責任を持って取り組むことが大切だと思います。
○ 人とのかかわりによって仕事の内容も変わってきます。良い出会いがあれば楽しいし、合わない人もきっといます。その経験も必要になるし、やらないよりやった方が良かったと思える日も来ます。でも、無理なときは、家族や友人に相談しながら皆働いていますよ。
○ もちろんお金を稼いで生活するために働いているけど、お金のためだけに働くのでは面白くない。好きなことが仕事にできればよいがなかなか難しい。まずは、広く知識を養い、いろんなことに興味を持って、一生懸命に頑張れることを見つけて職業にできたら幸せだと思う。
○ 好きなことを選ぶことで、働くことを楽しむことができる可能性が高くなると思います。ついた仕事を楽しむ意識も大切で、それによって仕事がさらに好きになるのではないかと思います。
○ 今からコミュニケーションを通して人と関わる力を強めて、自分のやりたい仕事を見つけてください。
○ 働くことで、生活していくためや、あなたにとって欲しいもの、好きなこと（趣味）をするために必要な収入が得られます。仕事を通して誰かのために役立つと感謝されたり、できないことに挑戦してできるようになったり、達成感を味わえることもあります。職業を選ぶとき、自分に合うと思う職業、やりたいなと思う職業が見つけられるといいね！

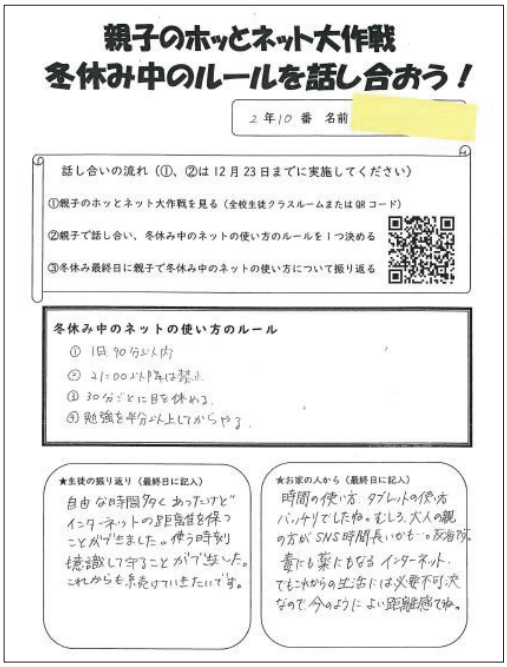
～学校と連携して～

ア　街頭指導（生活広報委員会）

交通安全指導を教職員と共に、役員が街頭に立って行っている（４月・９月）あいさつ運動と共に、交通ルールの遵守と並進禁止、ヘルメット着用を呼びかけている。

イ　情報モラルの醸成

「親子のホッとネット大作戦」（石川県・石川県教委作成）の冊子を利用して、家庭でのネットルールづくりを呼びかけ、携帯電話や端末等の適切な利用を考えていく取組を行った。学校での取組がきっかけとなり、普段親子で話しにくいことを話し合えるよい機会となった。


親子のホッとネット大作戦
冬休み中のルールを話し合おう！
2年10番 名前
話し合いの流れ（①、②は12月23日までに実施してください）
①親子のホッとネット大作戦を見る（全校生徒クラスルームまたはQRコード）
②親子で話し合い、冬休み中のネットの使い方のルールを1つ決める
③冬休み最終日に親子で冬休み中のネットの使い方について振り返る
冬休み中のネットの使い方のルール
① 1日90分以内
② 21:00以降は禁止
③ 30分ごとに目を休める
④ 勉強を半分以上してからやる
★生徒の振り返り（最終日に記入）
自由な時間多くあったけど"インターネットの距離感を保つことが"出来ました。使う時刻を意識して守ることができました。これからも気をつけたいです。
★お家の人から（最終日に記入）
時間の使い方、タブレットの使い方バッチリでしたね。むしろ、大人の親の方がSNS時間長いかも…。反省。毒にも薬にもなるインターネット。でもこれからの生活には必要不可欠なので今のようによい距離感でね。

3　おわりに

この邑知中学校では、どのＰＴＡ活動においても大変参加率が高い。そのことから分かるように、学校の様々な教育活動に全面的に協力していく事が伝統になっている。学校を全面的に信頼し、協力する風土は小学校からの流れでもある。地域も学校の教育活動に協力的であり、地域の方が地域学習の講師として快く参加してくれる。

少子化、情報モラル、SNS など今日的課題は多いが、家庭でできないことを学校での取組がきっかけとなり、親子で話し合いができる。今後も学校と協力して教育活動を進めていきたい。

こどもと絵本とお話しマムと
～ 心の種を育てる読み聞かせ ～

三重県桑名市立城南小学校 城南お話しマム
栗　田　麻　子

１　はじめに

(1) 地域の紹介

三重県の北東端に位置し、木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）の河口に開けた桑名市は古くから東海道の宿場町「桑名宿」として栄えた歴史ある水郷都市です。鹿鳴館で知られる建築家ジョサイア・コンドル設計による洋館と和風建築からなる、国の重要文化財「六華苑」、日本最大級の花と緑のテーマパーク「なばなの里」や絶叫マシンと温泉が楽しめる「ナガシマリゾート」があり、全国から多くの観光客が訪れます。江戸時代から「その手は桑名の焼き蛤」と謳われた名物のハマグリ料理や、伝統銘菓「安永餅」など、食の魅力も豊富です。

(2) 学校の紹介

本校は創立 154 年、明治時代からの長い歴史と伝統を持ち、地域に見守られながら歩みを続けている小学校です。自然豊かな三重県北部に位置し、西には鈴鹿山脈、東には伊勢湾を眺めることができます。本年度の全児童数は 353 名で、桑名市内では５番目に大きい学校です。自ら考え、心豊かに生きる子どもを育てる教育理念のもと、家庭や地域と一体となった「地域とともにある学校づくり」を積極的に目指しています。子どもたちは日々の学習や行事を通じて、かしこく、やさしく、たくましく生きる力を育んでいます。



２　城南お話しマムとは

(1) こんにちは！お話しマムです

私たちお話しマムは、城南小学校を中心に本の読み聞かせを行っているボランティアグループです。授業時間前の「朝の読書」の時間の読み聞かせを中心に、おはなし会、通信の発行など、楽しく本に親しんでもらうための活動を行っています。今年度のメンバーは１８名。うち１０名が現役小学生の保護者、８名は卒業生の保護者で構成されています。



(2) 昔々…お話しマムのはじまり

桑名市内の小学校で活動している読み聞かせのグループは多数ありますが、その中でもお話しマムの活動は特に早く、2000 年、３人のお母さんによって作られた絵本の読み聞かせグループ「おはなし・ネネム」が始まりです。当初は１年生と当時小学校に併設されていた幼稚園で読み聞かせを定期的に行っていました。活動が小学校に限られた頃から「お話しマム」と名前は変更しましたが、当初より「温かいお母さんの目線」を大切に、たくさんの保護者の協力のもと、リレーのバトンのようにメンバーからメンバーへ引き継がれ、現在まで続いています。創立時からのメンバーも１名、大活躍中です。「マム」と名前は付いていますが、現在「グランマ」も在籍しています。

３　お話しマムの一年間

(1) 朝の読書の時間

低学年は毎日の授業の前に、朝の読書の時間（朝読）があります。曜日、日数は、年度の初めに学校の先生と相談しますが、今年度は１・２年生は週に１回、３～６年生は月に１回程度、各教室で１０分間、本の長さにもよりますが１～３冊、季節や年代に合わせた本を選んで読んでいます。



朝読の風景

(2) 城南フェア

城南小学校では、秋にＰＴＡが中心となり校内で様々な体験ができる「城南フェア」というイベントが開催されます。お話しマムも、物語にちなんだ謎解きゲームやスタンプラリー、特別なおはなし会（昨年度は「こわいお話の部屋」）等、毎年趣向を凝らした企画で参加しています。

2019 年の城南フェアでは地元出身の絵本作家をお招きして、体育館で全校児童を対象とした大きなおはなし会に初めて挑戦し、その後の新たな活動につながりました。



城南フェア
手作り紙芝居
＆なぞとき

お話しマム通信「今日のおはなし、な～に？」



(3) お話しマム通信

年に数回、通信を発行しています。活動報告、朝読予定、夏休みに読みたくなる本の特集、朝読の時間に読んだ本の紹介、学校の先生のお薦め本など、自宅で通信を一緒に見てもらうことで、家族で図書館や本屋さんに足を運んだり、会話や本を手に取るきっかけとなったりすることを願っています。

(4) マムプラス

マムプラスとは、普段の朝読にプラスして、もっとお話を楽しんでもらうために、授業の１限（４５分）を使ったお話の時間です。内容や時期などを先生と相談の上、実施しています。季節やテーマに合わせた選書を行い、朝読に読むには長すぎる本をゆっくり楽しんだり、物語を聞くだけでなく、声を出したり、体を動かしたり、見たり触れたり考えたりするプログラムも。また、授業を発展させるようなプログラムやブックトークも要望があれば取り入れています。児童の人数や内容に合わせ、教室だけでなく図書室や体育館で行うこともあります。ここ数年は全学年で実施しています。



マムプラスが始まるきっかけとなったのは、コロナ禍の影響により、遠足、運動会、城南フェア等の中止や縮小化など、できないことだらけだった 2020 年、何かこどもたちのためにできることはないかと考え、授業時間を利用したおはなし会を先生に提案し、ご協力いただけたことです。ちょうど４年生は地域のことを学習している学年ということもあり、地元桑名に伝わる物語や中原中也の詩、松尾芭蕉の俳句など、クイズや物語マップ作りを楽しみながら、桑

名をめぐるプログラムとなりました。

(5) 本を手に取りやすい環境づくり

小学校の図書室には常勤の司書がおらず、たくさんの散らかった本を片付けるのも、図書委員の児童だけでは時間が到底足りません。定期的な整頓作業、また不定期ではありますが、ＰＴＡの保護者に声掛けをし「図書室片付け隊」と銘打って、高い場所など、こどもたちだけでは手に負えない学校図書室の清掃や、本の修繕に取り組んでいます。

(6) 地域とつながる活動

お話しマムは小学校だけではなく、地域の活動にも参加、協力しています。地域住民が主体となり活動しているまちづくり拠点施設では、夏休みに小学校の図書室の本を利用した出張図書館、親子で楽しむおはなし会､絵本を題材とした工作作り､また、小学校で行われた認知症サポーター講座では認知症に関する絵本の朗読も行いました。

３　お話しマムができること

(1)「今日のおはなし、な～に？」

朝読で小学校を訪問した時、こんな台詞をこどもたちからかけられることがあります。通信の名前にもなっています。

読み聞かせ活動をはじめた理由は、こどもにお願いされて、友人に誘われて、読み聞かせを聞いて感動して...等、メンバーにより様々ですが、私たちの活動の一番の原動力となっているのは、おはなしの時間を心待ちにしてくれているこどもたちの顔を見られることです。学校生活の一部に組み込まれた活動であることから、授業参観では見ることのできない自然な表情がとても印象的です。年齢を重ねれば自分で読めるようになるのだから、読み聞かせは低学年だけでよいのではという考えもあるかもしれませんが、高学年のこどもたちの心が動くような本との出会いに立ち会えた時には、何とも言えぬ喜びがあります。

(2) みんなちがってみんないい
～個性を活かした活動～

お話しマムが他の読み聞かせグループと比べて珍しいと言われるところは現役の保護者と卒業生の保護者が一緒に協力して活動を行っているところです。子育てや仕事に毎日フル回転のＰＴＡ現役マムさんを、ちょっと余裕のできたベテランマムさんが引っ張り、サポートできる体制になっています。年齢も仕事も得意なことも様々、お話しマムの企画の数々はそんなメンバーの個性を活かしたものになっています。皆が無理なく、楽しんでできる、そんな活動を目指しています。





活動に興味を持たれた方に一番尋ねられるのは「朝読の本は、どうやって選んでいるのですか？」という質問です。お話しマムでは、メンバーそれぞれが、自宅や地域の図書館のたくさんの本の中から自分の担当の日、担当の学年に合わせて選書を行っています。今月は昔話を選んでみようか？とか、二人で大型絵本を読まない？等、メンバー間で声掛けや相談、意見交換をすることもありますが、基本的にはそれぞれに任せています。この本は面白いと選んだ本も、学年によって、クラスによって、全然反応が違うことは多々あります。でもそれは当たり前のことで、面白いの基準も人それぞれ､こどもたち一人一人が違うように、お話しマムも一人一人違います。だからこそ、その違いを、こどもたちが今まで出会ったことのない色々な本に触れ合うチャンスだと考え、選書をお願いするようにして

います。

(3) どうしたらできる？

コロナ禍の際、お話しマムの活動も転換を求められました。活動を自粛するのは簡単なことです。しかし、ただでさえ色々なことが制限されている中、こどもたちのためになんとか続ける方法はないかと、学校と検討を重ねました。これまで、おしくらまんじゅうのように寄り集まって聞いていた朝読は、ソーシャルディスタンス確保のため、教室では一人ずつ離れた自分の席で聞くことに。おはなしをする時には教壇でマスクとフェイスシールドが必須になりました。また、後ろの席の児童には小さな絵本では見えません。同じ本を何冊か用意して近くで見てもらえる工夫をし、大型絵本や紙芝居、絵がなくても楽しめる物語を選びました。おはなしをする際、読み手も聞き手も、表情が見えるというのはとても大切なことです。実際に言葉を交わすことはできなくても、こどもたちの反応を見ながら、本を通じて会話をするような気持ちで読み聞かせを行いました。その結果、お話しマムのメンバーも活動も途絶えることなく、現在につながっています。

4　未来へバトンをつなぐ

(1) 人と人とのつながりを大切に

小学校で活動する読み聞かせ団体の中には在校生の保護者のみで活動する団体も多いかと思います。こどもが在籍している間は学校に足を運ぶ機会も多いため、意欲的に活動できますが、こどもの卒業に合わせて読み聞かせ活動を卒業するメンバーも多いのが現状です。学校との連携のために、各学年にメンバーがいることが理想ですが、共働き世帯も多く、平日の活動が難しい保護者も多いようです。現役世代と卒業生世代（地域ボランティア）がどのように関わり、活動を支え、引継いでいくのかが、課題です。

(2) こどもと先生の心を守るために

現在、お話しマムでは全学年の朝読、授業時間を利用したマムプラスなど、学校の理解と協力のもと、様々な活動を行っています。しかし、この活動も長年のお互いの信頼あってこそ、一朝一夕で可能になったわけではありません。過去には朝読も低学年のみという年度もありました。学校の働き方改革が求められる今、お話しマムの活動が、先生の負担軽減につながる取り組みの１つとして取り入れられ、こどもたち、そして見守る先生も一緒に物語に触れることで、ゆったりと心に余裕を持って一日を過ごしてもらえるよう、さらに知識や技術を磨く必要があると考えています。

5　お話しマムが大切にしていること
～心の種を育てよう～

絵本を広げると、こどもたちがこちらを見つめている目はいつも本当にキラキラしています。物語を聞き、想像し、心の種が育まれていく瞬間を共有し、見守ることができるのは、お話しマムのメンバーにとっても、とても貴重でかけがえのない時間です。継続していくことの難しさを感じることもありますが、この活動を通して学校や地域、人と人とのつながりを守っていくことで、こどもたちの笑顔と、未来の夢へのかけはしへとなるように。小学校でのおはなしの時間が、こどもたちにとって幸せな記憶の１ページとなりますように。そんな願いを込めながら、これからも活動を続けていきたいと思っています。

